

南の風 520

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

今回は、鈴木 良和氏の「競争と比較の弊害」についてです

人間は意識しているか、意識していないかに関わらず「競争」や「比較」をしてしまう動物です。しかし相乗効果的なチームを作り上げるうえで「競争」や「比較」は弊害になります。自分とチームがともに成長していくのだという意識の邪魔をし、勝ち負け思想を助長するのです。

「競争」は強いチームに必要なことじゃないかと思われる方も多かもしれません。あいつに負けたくないという、ライバルとの競い合いでお互いが高まるということは確かによくあることです。こういった関係を切磋琢磨と言いますが、切磋琢磨と単なる競争は本質が違います。自分を磨くことで相手も磨かれるというのが切磋琢磨であり、結果的に自分が相手よりも上にいれば良いというだけの競争意識は切磋琢磨ではありません。チームを強くし、相乗効果的な関係につながるのは切磋琢磨の関係であり、単なる競争の関係ではありません。相手が磨かれることを喜ぶ思いやりと、自分を磨くという勇気がなければ切磋琢磨の関係になれないのです。自分だけが成功すれば良いというマインドの競争意識では相乗効果的なチームワークにはなりません。

比較も相乗効果にとって弊害となるものです。「Aに比べてBは全然だめだ」というような声をかけられると、自然とチーム内で「他者と比べて自分が良くなるように」という力学が働きます。こうなったら、他者の成功は相対的に自分の失敗という関係になりますから、相乗効果的なチームワークからどんどん遠ざかります。だれかと比較してそれを上回ろうとしているうちは、自分の成長のレベルが相手によって決まってしまう。比較している相手を自分が超えたと思った瞬間に、努力も成長も止まってしまうのです。

だれかと「比較」して自分が良くなるのではなく、常に自分がなりうる最高の自分を目指すこと、そういう人間同士がお互いにポジティブに影響を受け合うことで、相乗効果的なチームが作り上げられるのです。

競争や比較を使ってもいい場面が一つだけあります。それは、「自分」に向けて使う場面です。

昨日の自分と競争する、昨日の自分と比較して今日がより良い自分になるように努力する、それが私的 success を生み出します。そして、それを他者に向けないという成熟した人間性が相乗効果的なチームワークを作る土台となるのです。

ミニバス時代から、こういった意識を持たせることは正しいマインドの構築につながる気がします
次です 「リーダーシップはキャプテンだけが発揮するのか」についてです

リーダーシップを発揮できる選手とは、チームをポジティブなコンディションに引き上げていける選手のことではないでしょうか。ということはリーダーシップを発揮するのはキャプテン1人だけと決まっているわけではないのです。一般的にはキャプテンのリーダーシップに引っ張られるのが自然な形と考えがちですが、号令をかけて指示を出す人だけがリーダーシップを発揮するとは決まっていないのです。

次号に続きます